

郷土マーメイド

逗子市立図書館報
第24号
2020年11月1日発行
逗子市立図書館
逗子市逗子4-2-10
046(871)5998
<https://www.library.city.zushi.lg.jp>



和賀江島



国内最古の築港遺跡

逗子市と鎌倉市の境、鎌倉市材木座海岸の延長地域に浮かぶ和賀江島は、鎌倉幕府の執権・北条泰時の下で1232年に人工的に築かれた島です。

人工島としては、平安時代末期に平清盛が日宋貿易のために築いた兵庫県の大輪田泊（おおわだのとまり）に経ヶ島（きょうがしま）があります。経ヶ島は地形変化のために失われてしまったため、現存する築港遺跡としては和賀江島が国内最古のものとなります。小坪の飯島とも関係の深い和賀江島について、その歴史と逗子との関わりをひもといてみましょう。

鎌倉時代

和賀江津の港

鎌倉時代、和賀江島が造られる以前、付近の海岸は和賀江津（わかえのつ）と呼ばれており、日宋貿易や日本各地からの船が多く出入りしていました。治承4年（1180）、源頼朝が鎌倉入りを果たし鶴岡八幡宮を造営した際も、材料となる多くの材木が和賀江津に陸揚げされ、境内に運ばれました。しかしその頃の和賀江津は、遠浅であるため船荷の積み下ろしに不便な上、風と波が強く船が難破することが度々ありました。



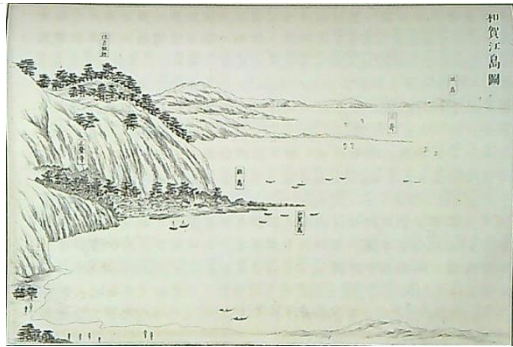
和賀江島の誕生と

北条泰時の国造り

鎌倉時代の歴史書『吾妻鏡』には、
勧進僧・往阿弥陀仏（おうあみだぶつ）が和賀江島の築造を発願したと書かれています。往阿弥陀仏は遠浅の和賀江津は港として適していないと考え、貞永元年（1232）7月12日、沖合に船着き場となる島を築くことを願い出しました。執権・北条泰時は直ちにこれに賛同し、3日後には築造工事を開始、ひと月足らずで防波堤と港の機能をもつ和賀江島を完成させます。和賀江島ができたことによりつて鎌倉の流通はさらに活発になりました。

和賀江島が完成した直後8月10日には、幕府の法令「御成敗式目」も制定されています。貞永元年

8月は、泰時の国造りにとって重要な政策が次々と実現された月でした。



和賀江島図『新編相模国風土記稿』

極楽寺下の管理

〜忍性と日蓮〜

鎌倉幕府の庇護によって和賀江島は商業地域として栄えました。

鎌倉時代末期には極楽寺の管轄となり、和賀江島に関所が設けられました。関所では、島に到着する船舶から関米を徴収し、その収益で島の修築、維持管理が行われるようになった。

当時、鎌倉で布教活動をしていた日蓮上人は、寺が人々から関米を徴収することを嫌い、極楽寺の僧・忍性（にんしょう）を度々批判しました。日蓮と忍性には有名な雨乞い対決の伝説がありますが、ふたりは和賀江島をめぐるでも対立していません。

室町〜戦国時代

円覚寺の所領

鎌倉幕府滅亡後の室町時代、和

賀江島は足利尊氏側近の饗庭氏直（あえば・うじなお）に与えられ、氏直によって円覚寺に献上されました。和賀江島に接した部分は「相模国鎌倉郡小坪」と称され、円覚寺黄梅院領となりました。当時の記録は円覚寺黄梅院文書に残っています。宋の滅亡により日宋貿易は終わりましたが、和賀江島と小坪地域は漁場や港湾施設として機能し賑わっていました。

江戸時代

天領の港

石・材木・海産物の運搬

江戸時代、鎌倉・逗子地域は幕府の天領でした。徳川家康の江戸城本丸建設と石垣の増改築・改修で

使用される石、鶴岡八幡宮の修繕のための材木、そして幕府に独占的に買い上げられるようになった鎌倉や小坪の海産物など、海路で江戸に運ばれる多くの品々の運搬拠点として、和賀江島が使われました。

観光地 江の島・鎌倉

江の島詣が流行すると、鎌倉も観光地として有名になりました。

水戸光圀が編纂・刊行させた『新編鎌倉志』（1685）や、『鎌倉攬勝考』（1829）、『新編相模国風土記稿』（1841）といった地誌や紀行文に、和賀江島が紹介されています。

支配権争い

明和元年（1764）、和賀江島の支配権をめぐり、小坪村と材木座村の漁師たちが裁判を起こしました。

発端は、和賀江島の内側に小坪村が通船口を造ったことにありました。和賀江島が地理や資源の上で重要だったと考えられます。この裁判のための図面や訴状が残っており、当時の和賀江島の様子を知る貴重な手がかりとなっています。



和賀江島図『逗子市史 資料編I』

水没する和賀江島

和賀江島は時とともに高波や水流によって押し崩され、江戸時代の記録では、元禄年間（1688～1704）と文政年間（1818～1831）に島の修理

願いが出されています。文政9年（1826）の和賀江島修理願いには、天明元年（1781）に比べ海拔が6〜7尺（約2m）低くなり、満潮時には水没してしまっていると書かれています。

近代〜現代

小坪の古老の話によると、明治初年頃には島はほとんど水面下に没していたということですが、ただ明治初年の大絵図や明治半ばに作られた測量図には、和賀江島の輪郭が描かれており、形状は認識できていたようです。

大正12年（1923）の関東大震災では付近が1mほど隆起したため島全体が水上に現れ、石積みが崩落しました。翌年には鎌倉青年団

によって和賀江島に史跡指導標が建立されました。

太平洋戦争では昭和20年（1945）、連合軍上陸に備え、海軍横須賀鎮守府が和賀江島の石を運び出し、砲台・弾薬庫を小坪村に築くなど重要な資材として使われました。

戦後、昭和29年（1954）7月に、神奈川県指定史跡、昭和43年（1968）10月に国指定史跡に指定され、管理、保護されるようになりました。

平成12年（2000）には神奈川県による航空測量が行われ、史跡指定の範囲が確認され、平成18年（2006）に史跡指定範囲が広がりました。

時代とともに様々な利用され形を変えてきた和賀江島。この歴史を刻んだ遺構とその物語を大切に次の世代へと伝えていきたいもの

です。



パラグライダーからの和賀江島
2008年6月18日撮影
蟹江康光氏提供

主な参考文献

『史跡和賀江嶋保存管理計画策定報告書』 70-Zシ
鎌倉市教育委員会・逗子市教育委員会
『鎌倉の内湊町「飯島」と港「和賀江津」』 70-Zイ
伊藤一美／著

*和賀江島の表記については、和賀江嶋など資料によって違いがあります。